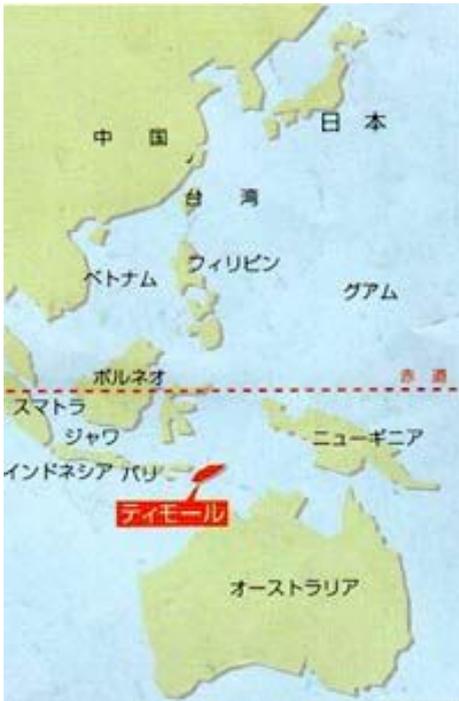


## 【ICRC(赤十字国際委員会)東ティモール紛争犠牲者救援事業に参加して】

### 診療放射線技師 古川 裕生



インドネシアの東端に位置し、人口 80 万人、国土面積が約 1 万 5 千キロ平方 m (長野県と同じ位) の東ティモールは、1999 年 8 月 30 日、国民投票を国連の監視下を実施し、インドネシアからの独立を圧倒的多数で決定しました。

しかし 1999 年 9 月、インドネシア軍は、インドネシア時代に建築した公共施設のほとんどを破壊して本国へ帰ってしまい、インドネシア軍の支援を受けていた独立反対派は全国各地で殺戮を繰り返し、20 万以上の東ティモールの人々は難民となって陸続きの西ティモールへ避難し、その他の人々は山中へ逃げ込みました。数千人とも数万人ともいわれる人々が殺され、ほとんどの家屋は破壊されてしまいました。その後、緊急国連軍の展開で事態は沈静化しましたが 2001 年 6 月の調査では未だ西ティモールには 20 万人の難民が滞在しています。

現在は国連の暫定統治下におかれています。今年 8 月 30 日には憲法制定議会の選挙を実施し、来年には新しい憲法を制定し独立へと向かっていきます。

1999 年 9 月の大混乱の最中、ICRC(赤十字国際委員会)は、首都ディリ市内の病院を拠点に、紛争犠牲者の救援活動と、混乱で離散した家族の捜索活動を開始しました。当時、病院ではインドネシア国籍の医師は全員帰国してしまい、わずか 7 人の看護婦(師)が 20 数人の患者さんとともに病院を守り続けていました。混乱が収まった後、ICRC の医師、看護婦、その他の職種の派遣員と現在職員とが協力し、病院機能の回復に努めてきました。226 ベッドの病棟と外来、手術室、エックス線室や検査室からなるこのディリジェネラルホスピタルは東ティモールでの唯一の総合病院で 1999 年 9 月から 2001 年 6 月までの統計によると表の通り、東ティモールの復興に大きな役割を果たしました。

	週平均	総計
入院患者数	142 人	11,183 人
外来患者数	2,004 人	131,727 人
手術件数	46 件	3,860 件
出 産	44 人	2,694 人
死 亡	10 人	720 人

今年の六月ICRCは、国際赤十字の任務は完了したと判断し、この病院から撤退し、現在は国連暫定統治機構と、オランダのNPO組織によって運営されています。

私はこのディリジェネラルホスピタルに昨年 11 月に赴任し、半年間、放射線技師として国際赤十字活動に参加してきました。



東ティモールも東南アジア地域と同様マラリア汚染地域で、毎朝の日課は50～60匹のマラリア蚊の退治から始まります。業務はマラリア、結核、肺炎などに感染した患者さんの胸部腹部のエックス線撮影と交通事故や喧嘩で怪我をした患者さん達の撮影が主で、まれに造影剤を使った腎臓結石の造影撮影などがあります。

夜間は現地職員のエックス線技師と交代で2日に1回の当直業務で、救急患者さんの撮影をこなして来ました。栄養不良でマラリアにかかった多くの子供達や結核を患った老人が、国際赤十字の医師や看護婦、現地職員の懸命な努力にもかかわらず入院後数日で死亡していく姿を見ると「同じ人間としてこの世に生を受けていながら、生まれた国によってこんなに差があっているのか」と心が痛む思いでした。(病院スタッフに囲まれた筆者(中央))



旧式のエックス線機器で効率が悪く大変でしたが、貧困と戦乱で苦しむ人達の救援という国際赤十字の活動に参加できて、有意義な日々を送ってきました。

この経験を生かして、今後も機会があれば積極的に海外での赤十字活動に参加していきたいと考えています。

(左:ディリジェネラルホスピタル)